

シルバー連合会

第24号

【平成20年7月発行】



春の参道（英彦山）

目次

- 平成20年度 第1回定期総会
役職員研修会及び
第1回事務局長会議開催..... 1
- 平成19年度 第2回定期総会
役職員研修会開催..... 2
- 平成20年度
主要事業計画のあらまし..... 3
- 平成20年度 安全・適正就業対策
実施計画..... 4
- 平成19年度統計に見る
福岡県S C 情報..... 5
- 研修会報告..... 7
- S C 独自事業販売物品紹介..... 9
- センターだより..... 11
- 安全就業対策に関する情報..... 12
- 平成20年度 シニアワークプログラム
技能・介護講習実施計画..... 13
- 一言コーナー・今月の表紙
- 編集後記



平成20年度 第1回定期総会

役員研修会及び第1回事務局長会議開催

6月19日(木)

博多都ホテル

6月19日(木)福岡市の「博多都ホテル」において平成20年度第1回定期総会が開催されました。

総会には後藤達太連合会長の挨拶に始まり、来賓を代表して福岡労働局の鈴木 徹職業安定部長と福岡県福祉労働部の松永大四郎労働局長から祝辞をいただきました。

議長に大木町シルバー人材センターの松枝 功理事長が選出され議事が進められました。当日審議された案件は、「定款の一部を改正する定款(案)」「平成19年度事業報告」「平成19年度決算報告及び監査報告」「平成20年度事業計画の一部変更(案)」「平成20年度補正予算案」「役員の選任」の6件が審議され、いずれも可決承認されました。

定期総会終了後、総会に出席された各センターの理事長・事務局長を対象にした研修会が開催されました。講師には、広島県の労働行政を退職後高齢者のためにいろいろな面で活躍され、その後東広島市シルバー人材センター理事長としてシルバー事業に長年携わってこられた植田是賢氏に、「地域における役割と配分金以外に得るものとはなにか」と題して講演をいただきました。

なお、当日は午前10時30分から「平成20年度第1回事務局長会議」を開催し、6月5日開催された全シ協主催全国都道府県連合事務局長会議の概要について連合会事務局長から報告がありました。

平成19年度 第2回定期総会

3月19日(水) 博多都ホテル

平成20年3月19日(水)午後1時30分から福岡市の「博多都ホテル」において、平成19年度第2回定期総会が開催されました。

開会に先立ち後藤達太連合会会長から挨拶があり、続いて来賓の福岡労働局の石田茂雄職業安定部長と福岡県生活労働部の松永大四郎労働局長から祝辞をいただきました。

議長に古賀市シルバー人材センターの松本欽一理事長が選出され議事が進められました。当日審議された案件は「平成19年度補正予算(案)」「平成20年度事業計画(案)」「平成20年度収支予算(案)」の3件で、いずれも可決承認されました。

定期総会終了後引き続き、役職員研修会が開催されました。

澤田知子(有)アイ・ビーサポート代表取締役、キャリア・ディベロップメント・アドバイザーを講師に「組織・業務管理とCS(顧客満足)」の演題で内容は、『シルバー人材センターの組織についての考え方』『管理者の役割とリーダーシップ』を中心としたもので、特に我々の仕事が、顧客と直接係わることから、シルバー人材センターの業務を例に出しながら、顧客満足とは何か、役職員として、組織管理のための役割をどう果たすかというマネジメントに関する話を中心となる講演でした。

また、講演の中には、コミュニケーションを基本的に理解するために、「お絵かきゲーム」が取り入れられ、講師の発する言葉から連想する絵を参加者全員が描きましたが、それぞれが異なった絵になっており、個人のもつ先入観や固定観念が、絵の仕上がり具合に大きく作用することや、言葉の伝え方、伝わり方の難しさを改めて感じさせる内容でした。

内容は盛り沢山でしたが、時間の超過も忘れるほど説得力のある講演で、盛況のうちに閉会しました。



挨拶をする後藤連合会長



選任を受け議長を務める松本古賀市SC理事長



講演する澤田知子さん

平成20年度

主要事業計画のあらまし

少子高齢化を伴う人口減少社会が進む中で、高齢者が生涯現役として多様な形で社会参加することが求められており、シルバー人材センターの果たすべき役割は一層重要となっています。また、地方公共団体においては多様な地域再生施策を推進しており、センターの特性を生かして積極的に参画して行くことが期待されています。

このため、全シ協においては「社会経済環境の変化に対応したシルバー人材センター事業の進め方に関する取り組みについて」を踏まえつつ再チャレンジ支援総合プラン行動計画としての「2010年度会員数100万人」目標達成に向けたシルバー人材センター事業活性化計画に基づく総合対策の推進や、地方公共団体の地域再生計画と連携した多様な事業への取り組み等、重点5項目を掲げ、社会の更なる評価が得られるよう事業の刷新強化を図ることとしています。

予算面においては、概ね前年度並みの補助金の額は確保されていますが、補助事業制度においては企画提案方式の事業運営に移行される等、更に厳しい運営が迫られています。

また、高齢者就業の基本である安全と法令の遵守については、なお一層厳格な対応が求められています。当連合会とセンターは一体となってシルバー人材センター基本理念を尊重し、時代に応じた事業の発展を目指すこととします。

1 重点項目

(1) 安全・適正就業推進事業の強化

平成19年度においては死亡を含む重大事故が多発したため、今年度は更に周知・徹底に力を入れることと

します。

① 連合会委員会の構成を改正しました。

② 連合会委員会によるパトロールの方法を検討中です。

③ 安全就業促進大会の内容を検討中です。

④ ブロック別会議は今年もお願いいたします。

(2) シルバー事業活性化計画に基づく総合対策の推進

① 2010年度会員数100万人に向けた取り組みをお願いします。

② 普及啓発月間等を利用したシルバー事業の周知促進をお願いします。

③ ホームページ未設置のセンターは、取り組みをお願いします。

(3) 企画提案方式への積極的な参画

多様な形態による就業機会の拡大・生きがいの創出等地域社会の活性化に寄与する事業について、今年度から取り組むこととなった事業です。

① 企画提案4分野（教育・子育て・介護・環境）への指導支援を行います。

② 連合会においても、新規企画を検討中です。

(4) シルバー事業としての一般労働者派遣事業への取り組み

7月1日届け出を行うこととして、シルバー派遣検討委員会の設置等順次組織上の整備を図ります。

(5) 福祉・家事援助サービス・子育て支援事業の強化

過去の子育て推進委員会、子育て活性化委員会の実績を基として、取

り組んでいただき、女性会員の加入促進をお願いします。

① 高齢者活用生活援助サービス事業

② 高齢者活用子育て支援事業

2 調査研究事業

① シルバー派遣の状況を見ながら、需給システムの構築に関する調査。

② 公益法人の制度改革に関すること。

3 指導、相談業務の強化、実施

センター未設置地域の解消

無料職業紹介の実施

情報システム活用事業の推進

講習・研修会等事業の実施

関係行政機関、団体との連携

諸会議の開催

10 シニアワークプログラム事業の実施

本年度も、厚生労働省が募集する企画競争に参加し、事業主団体及び職業安定機関との連携を強めるとともに、幅広い職種について選定を行い実施することとなりました。

① 技能講習（長期）

「樹木・緑地管理」等28コースについて実施します。新規のコースとして「添乗員養成」があります。

② 技能講習（短期）

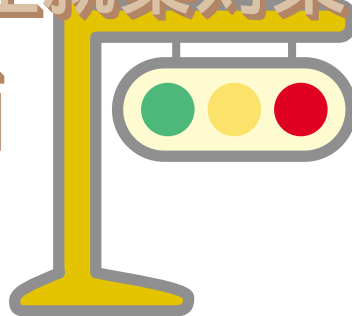
「剪定講習」等29コースについて実施します。新規のコースとして、「小型クレーン技能」「玉掛け技能」「フォークリフト」があります。

③ 介護講習（長期）

「訪問介護員養成研修2級課程」について、ブロックごとに実施します。

平成20年度

安全・適正就業対策 実施計画



平成20年度第1回の安全・適正就業対策委員会が4月18日に連合会会議室において開催され、安全・適正就業対策推進基本計画に基づく平成20年度の安全・適正就業対策実施計画が決まりました。

先ず本年度は重点項目として次の3点を設定いたしました。

- ① 安全保護員着用100%達成
- ② 高所危険作業の解消
- ③ 交通ルール遵守の徹底

昨年度は重大事故が相次ぎました。基本

である安全保護員をルールどおり確実に身につけていれば重大事故は避けられたと思われます。現に似たような事故状況でも安全保護員を着用していたために大事には至らなかったという事故も少なからず報告されています。そのようなセンターでも保護員着用の大切さを再認識されています。

また、高所作業受注の回避は現状では容易なことではないようですが、高所作業はとかく危険と隣り合わせであること、会員の入会動機が健康維持であることからすると本来シルバーでは受注すべきものではないはずです。危険には近づかないことです。

就業途上、帰宅途上の事故は傷害事故のうち4分の1を占めています。以前はハツと思ってもとつさの対応で事故から逃れたことも、加齢と共に対応が遅くなって避けきれなくなっています。今一度交通ルールを再確認し、たとえ青信号でも安全とは限らないという考えで臨んでもらいたいものです。

次に本年度の安全・適正就業対策実施計画は次のとおりです。

- ① 本年も委員会によるセンターの安全・適正就業パトロールを実施します。昨年までに委員会による全てのセンターのパトロールを終えました。本年度は委員に新しいメンバーが加わり、より実務的なパトロールを実施する予定です。パト

ロール先は過去の事故例、事故発生件数（度数率）等を勘案して選ぶこととなります。

- ② 安全就業促進大会を7月24日（木）に開催いたします。7月は全国シルバーの安全就業強化月間です。昨年の事故は8月をピークに夏場に多く発生しました。安全大会は安全就業を再確認し、会員一人一人に安全就業を呼びかけてもらう機会と位置づけています。

- ③ 安全・適正就業推進員研修会を開催いたします。新しい情報の提供を受け、テーマを討議し、結論を見出すとともに、推進員間の情報交換の場としても活用してもらいます。

- ④ センター等に対する支援について
各センターの安全・適正就業の取り組みについて情報を収集し、優れた取り組みについてセンター等に紹介いたします。
- ⑤ センターから定例事故報告を求め、その集計結果を各センターに情報として提供し事故防止に役立ててもらいます。

- ⑥ 安全就業優良センターの表彰について
安全就業の推進に積極的に取り組み、その功績が顕著であるセンターを表彰する制度を設けます。

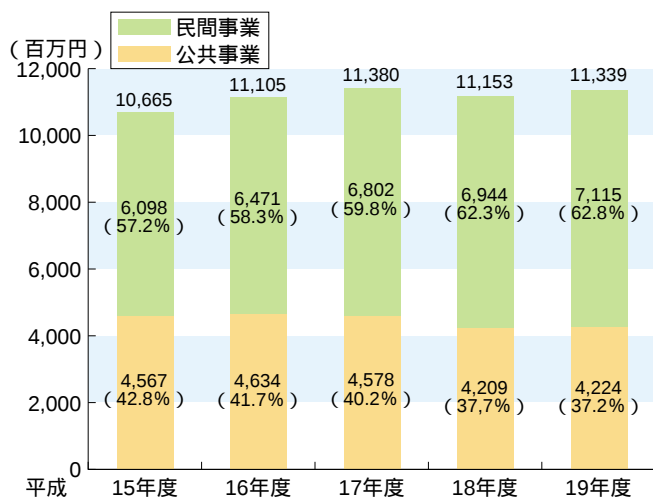
以上、本年度は昨年の結果を契機に、安全・適正就業を一つの転換期に位置づけたと考えています。

平成19年度統計に見る福岡県SC情報

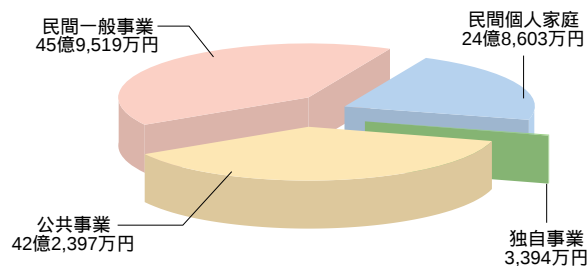
- 県内のセンターの年度統計を項目別に分析

契約金額

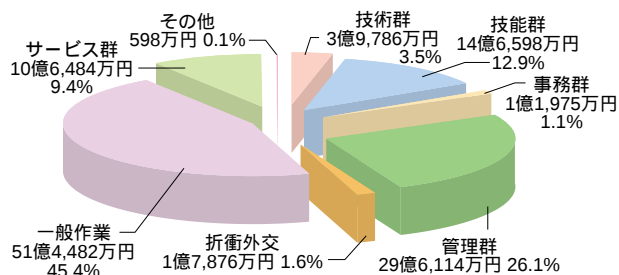
平成15年度～19年度契約金額の推移



総契約金額内訳



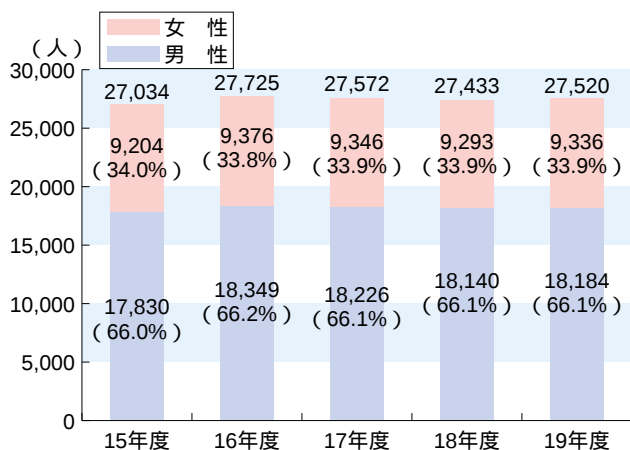
職群別契約金額内訳



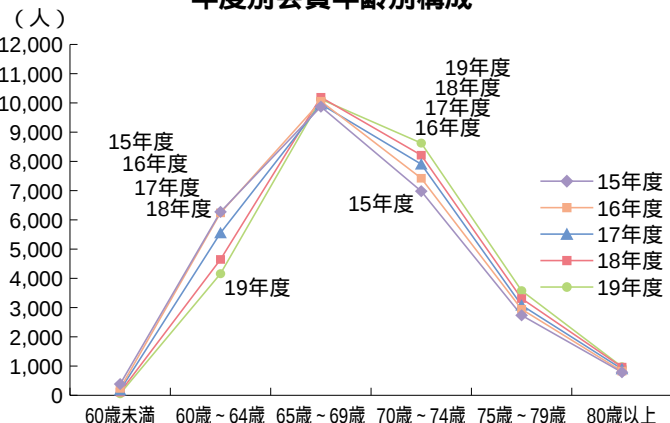
平成19年度契約金額
113億3912万円

会員等情報

平成15年度～19年度会員数の推移



年度別会員年齢別構成



会員数は16年度を、契約金額は17年度をピークに減少傾向でしたが、19年度は前年度に比べ、87名の会員増加、1億8,600万円の契約金額の増加となりました。

しかし、会員の年度別年齢別構成では、65歳～69歳が全年度を通じて多数を占めますが、60歳～64歳台では年々減少し、70歳から74歳台の会員は増加傾向にあります。

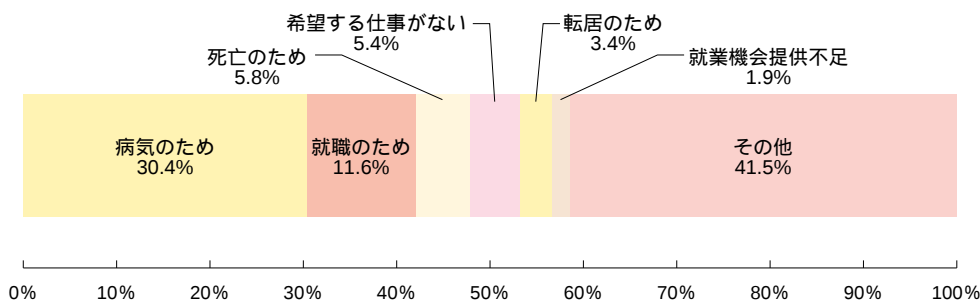
高齢者の継続雇用を背景に入会年齢も高くなり、会員の平均年齢も平成15年度に比べ1.2歳高くなっています。

	男性	女性	全体
最高年齢	95歳	89歳	
平均年齢	69.9歳	69.7歳	69.8歳
19年度会員数	18,184	9,336	27,520
19年度入会会員数	2,745	1,497	4,242
19年度退会会員数	2,700	1,455	4,155

全会員入会動機別割合



退会会員理由別割合



全会員の入会動機別割合では、昨年とほぼ同じ割合になっていますが、退会会員（4,155名）は「病気」が30.4%となり全国平均の23.2%を大きく越えています。

また、退会会員理由別割合の「その他」の41.5%については、今後詳細な理由について内容を調べ、対策を検討する必要があると思われます。

会費

	最低	最高	平均
会員年会費	1,000円	3,000円	1,275円
	1,000円～1,200円	33SC	
	1,500円	3 SC	
	1,800円	2 SC	
	2,000円	3 SC	
	3,000円	1 SC	

傷害保険

平成19年度傷害事故件数	228件
全センター確定保険料	5,934万円
1センター当たりの平均保険料	135万円
会員一人当たりの平均保険料	2,156円
保険会社から支払われた傷害保険金総額	9,004万円
1センター当たりに支払われた金額(平均)	205万円

確定保険料総額を会員数27,520人で除したもの

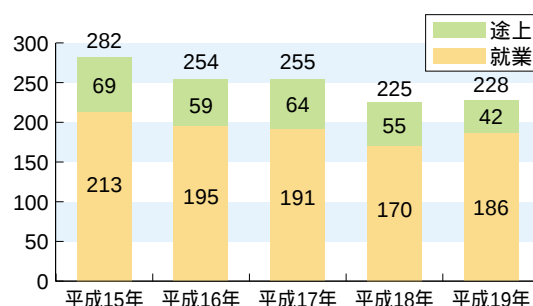
賠償保険

平成19年度賠償事故件数(実数)	165件
賠償保険料(県内総計)	1,025万円
保険会社から支払われた賠償保険金(身体)	3件 75万円
保険会社から支払われた賠償保険金(財物)	164件 1,481万円
センターに支払われた賠償保険金総額	1,556万円

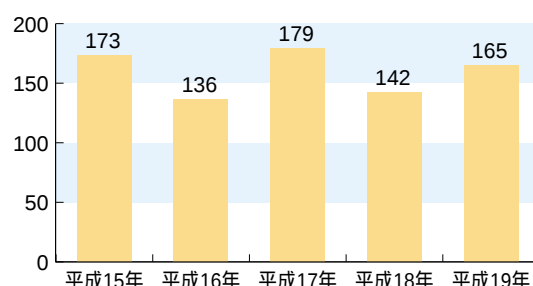
シルバー人材センター事業の推移

年度	会員数	就業実人員(人)	就業率(%)	就業延人員(人日)	受注件数(件)
15	27,034	22,727	84.1	2,316,545	131,083
16	27,725	23,345	84.2	2,441,223	138,986
17	27,572	23,372	84.8	2,546,357	140,916
18	27,433	23,351	85.1	2,542,021	146,199
19	27,520	23,413	85.1	2,610,901	147,512

年度別傷害事故件数



年度別賠償事故件数(実数)



受注件数、契約金額、就業延人員が伸びる中で、残念ながら傷害保険にかかる事故件数も、若干増加しました。

今年は、重篤事故が相次ぎ、支払われた傷害保険金総額が契約保険料を上回りました。

この点については、安全就業に向けての大きな課題となっています。

研修会報告

ブロック別経理実務研修会

福岡ブロック	平成20年 2月13日
北九州ブロック	平成20年 2月19日
筑豊ブロック	平成20年 2月22日
筑後ブロック	平成20年 1月29～30日

例年1回開催している経理実務研修会については、各ブロック毎の実施要望が多くあり、また、新公益法人会計基準適用初年度（平成18年度）の決算書類に改善事項等が見受けられることから、ブロック共催で連合会職員が担当し、研修会を実施しました。

研修内容は、各センターの平成18年度決算書類を点検し、財務諸表及び収支計算書等について今後の決算書類作成時の留意事項と、平成19年度貸倒引当金会計処理等について説明しました。その他、各センターの財政分析結果についての評価や質疑応答、意見交換を行いました。

連合本部及び監事研修会

平成20年 3月 3日(月)

シルバー人材センターが行う公益法人会計や会員就業に対する適正な受託業務等について、監事（62名）を対象に実施しました。

研修は、公認会計士と連合会職員2名で講義を分担し、当連合会顧問（あずさ監査法人）公認会計士越智 大氏の講義では、公益法人会計基準改正後2年目となる平成19年度決算書類内容の確認等についての留意事項、連合会職員による講義では、受託業務の就業形態の把握、契約内容の点検や適正就業の推進及び各センターへの会計指導相談業務の状況や次年度決算書類作成のチェックポイント等を講話しました。

安全・適正就業推進員研修会

平成20年 2月 5日(火) 博多ビル
参加者 51名

平成19年度の安全・適正就業推進員研修会は、重大事故が相次ぎ発生したことに危機感を抱き、安全・適正就業対策委員会で決議した重大事故回避のための安全就業遵守事項をいかに実行に移すかを討議する場となりました。

午前中の、連合会猪口事務局長による全シ協主催の「安全・適正就業パトロール指導員研修会」の報告につづいて、加茂弁護士による「就業事故におけるセンターの責任について」の講義は、センターが事故回避のためどのように対応したか、受注の段階から就業までが問われることから、安全確保のためのより一層の配慮が必要となってきたことが力説されました。

本誌23号で掲載報告いたしました重大事故多発により急遽開催しましたブロック別（安全就業）検討会議による検討結果を受け、安全・適正就業対策委員会で「重大事故防止のための遵守事項」が決議されました。午後の部では、この決議事項を実際にどう実施していくか、その方法について8グループに分かれて討議し、その結果を発表してもらいました。

9項目の遵守事項から2乃至3項目を選び、その実施方法を討議し、模造紙にまとめ、発表するには2時間30分は十分な時間ではなかったようです。テーマはセンター共通のものであり、遵守事項については納得できるものの、いかに実施に移すかということになると各センターには固有の事情にあることから、容易には結論が出にくかったのも時間不足と



して現れたのではないかと考えられました。

参加者の要望によりグループ発表の内容を編集し、各センターに送付しました。実施方法については発表結果を踏まえて、センターになじむ方法で実施されるものと期待しています。

また、グループ討議により他のセンターの活動状況が聞けて、これからの活動の参考になったという参加者も多かったようです。

参考まで遵守事項の項目を書き留めておきます。

1. 受注の際の安全確認について
2. 高所作業について
3. 作業の習熟度について
4. 作業体制について
5. 安全保護具の着用について
6. 会員の就業年齢について
7. 訴訟の対応について
8. 健康管理について
9. 途上事故対策について

福祉・家事援助サービス研修会

晴れやかに第10回記念大会開催（2月22日）

平成10年に始まった会員対象福祉・家事援助サービス研修会は、今年10回目となる節目の年を迎え、「福祉・家事援助サービス研修会第10回記念大会」として開催し、当事業の発展に貢献した4名の方を表彰しました。表彰の選考については、福祉・家事援助サービス事業功労者表彰取扱要綱に従い、各センターからご推薦いただいた14名の中から選ばれた次の方々です。

（社）大野城市シルバー人材センター

染原千鶴子様

（社）福津市シルバー人材センター

久保須磨子様

（社）筑紫野市シルバー人材センター

矢野 玲子様

（社）直方市シルバー人材センター

兒玉イツ子様



表彰に引き続き、春日市シルバー人材センター（小田茂子様）宮若・小竹シルバー人材センター（長谷川節子様）みやま市シルバー人材センター（西山カツ子様）岡垣町シルバー人材センター（大迫啓毅様）の事例発表の後、拠点会員による同好会、独自事業等の活動状況を発表しました。この発表は、研修会の10回目を記念して、就業だけではなく会員の融和と親睦を図りながら、生きがい、働きがいを持っていきいきと事業に参加している方々を紹介し、シルバー人材センターのイメージアップと会員拡大、事業発展を会員の皆さんに感じてもらうために企画しました。

はじめに、小郡大刀洗広域シルバー人材センター8名の方が、ハワイアン音楽に合わせ、柔らかな手つきでフラダンスを披露すると、真冬の会場は常夏の雰囲気染められました。続いての久留米市シルバー人材センター舞踊同好会14名は、久留米が



すりの一重に姉さんかぶりで、機織の音に見立てたそろばんを振りながら軽快に踊りました。久留米つつじ音頭では、紅一点ならぬ男性会員一名の参加もあり、会場は和やかな雰囲気包まれていました。リフォームファッションショーを発表した那珂川町シルバー人材センターと筑紫野市シルバー人材センターは、和ダンスの中で眠っている組の着物や大島紬を、現代風のコートやロングベストに見事に蘇らせ、絹のネクタイを使ったベストなどは、なかなかの評判でした。デザイン、製作者、モデルとすべて会員の手づくりのファッションショーで、モデルの会員も普段ほとんど履くことのないハイヒールを上手に履きこなし、素人っぽさを残しながらのウォーキング姿にもどこか微笑ましく、若々しさと躍動感を感じました。

最後は発表者全員が舞台上勢ぞろいし、「明日があるさ」を口ずさみながら会場と一体となり楽しんだひと時でした。

この大会を通じて、会員の皆さんが大勢の就業仲間との存在を身近に感じ、新たな就業意欲や自信に繋がったことと確信しています。



独自事業紹介

設立当初からボランティア活動の一環として門松の製作を実施していました。また、同時期に竹林の伐採の仕事が時折ありました。「この竹を利用して何かできないか？」が始まりでした。

平成15年3月に合馬竹林公園見学および研修を実施7月に竹細工の作業場が市のご協力を得て決定。8月に竹細工「身の文工房ゆくはし」の発会式となりました。

当センターの竹細工はくぐり門や袖垣等の大物製作

志向が強くこのままでは継続的な事業としては厳しい気運が高まり、小物製作の方向転換の時期へと移行していきましました。福井市シル



竹 細 工

(社)行橋市シルバー人材センター



バー人材センターのご協力をいただき、越前竹人形の見学に行ったのもその頃でした。当市主催の産業祭、福祉祭り等のイベントでは竹細工を中心に販売を行い大変好評です。同時に門松の注文もいただき、売り上げが80万円となりました。しかしながら正月前の門松製作時期と剪定作業が重なることで調整に苦労しました。

平成17年度、280万円をピークに売り上げの低下、および発足当時の会員が健康を害い、厳しい状況下にあることも事実で

す。また会員の技術のプライドが邪魔をし、どうしても製品がコストアップとなってしまうのです。

電動工具を使用するため安全には充分配慮してきました。5年目を迎え幸いにも電動のこぎりで指を負傷する事故が1件のみで推移しております。

今後の課題としては老朽化した作業場の代替確保と技術付与のための後継者育成の2点です。

あまり売り上げにこだわらず、会員が和気あいあいと楽しく同好会的な感覚で運営できればと考えております。できれば空き店舗を有効活用し竹細工を中心に特産物を販売し、会員が井戸端会議のできる店舗を持ちたいです。

未来の構想について話をする時、会員の目の輝きに大きな期待をせずにはいられません。





(社)大川市シルバー人材センター

「木好会」と「ひな飾り」

九州随一の大河「筑後川」の河口に面した全国屈指の「大川家具」の集産地である大川市は「インテリア産業の町」として460年の長い歴史の中で発展を続け、今日では国内最大の家具産地として、その名を知られています。

また、「古賀メロディ」の生みの親として有名な昭和の大作曲家古賀政男先生の生誕地にちなみ、「古賀メロディ」を多面的に活かしたまちづくりに取り組んでいます。会員の中には地場産業の家具職人OBが

いて、「木好会」という同好会を組織し、会員相互の親睦を深めながら廃材を利用して作品の製作に汗を流しています。

材料が廃材を利用しているために何を製作するか、木の種類や大きさなどを十分検討したうえで取りかからなければ、作品完成には大変骨が折れると聞いています。

このように苦心して出来た作品は、小物の生活実用品が中心なため展示即売会などでは多くの方々に大変な人気商品となっています。

もう一つの「ひな飾り」同好会では、毎年、「ひなまつり」の時期に間に合うよう仲間で伝統や風習を守り作品を作り続けています。

このひな飾りは大川地区独特のものといわれ、子供が1歳の誕生を迎える年の3月3日に、色彩豊かな飾り物、置物で部屋いっぱい



祝うものであります。現在では、このように派手な飾りつけを行う家庭は少なくなりましたが、いまだに根強い需要もあり、そこで、「ひな飾り」同好会が懸命に製作しているゆえんです。

完成までに数ヶ月を要するため展示数に制限がありますが、展示即売会会場では大変人気があり、このため会員の創作意欲もあ

のずと熱が入るものであります。このように同センターの独自事業は、地元

に密着したものを作るところから、年間の延べ就業日数も大変なものとなり、売り上げも今年度は約300万円を超えています。

今回の展示即売会に出品するため、両同好会の会員は今日も作品の製作に余念がないところであり



(社)飯塚市シルバー人材センター

民間受注拡大を目指して

(会員全員にマナー研修を実施)

人生経験豊かな会員になぜ接遇研修が必要なのか。

高度成長時代のシルバー人材センターの運営は、国、市の補助金と公共事業で充分に運営できると試算されていた。それがバブル崩壊後は補助金の削減につぐ削減と公共事業の半減で厳しい運営を迎えている。

更に、指定管理者制度の導入により公共施設の管理委託も次々に締め出される事態となり、受注事業を拡大するためには民間の受注を増やさなければ生き残れない時代である。

一方、シルバー会員は、前職もそれぞれである。民間事業の拡大と共に苦情の電話も多くなった。

「態度が悪い」「あいさつしない」「サービスが悪い」等々。

これから民間企業と立ち向かうには会員もマナーとサービスを精神を身に付ける必要がある。シルバーだからと優遇された時代ではない。



一度お客様から嫌な感情を持たれると仕事は二度とこない。

今までに会員が研修を受ける機会すらなかったことに問題があるにしろ、まずは接遇研修の専門家を招いて、会員全員にマナー研修を受講させることにした。

研修の内容は、「仕事はあいさつから始まり、あいさつで終わる」「相手が不愉快にならない服装」「会員同士のマナーとコミュニケーション」「1人の会員の態度が悪ければシルバー全体の評価を落とす」「大病を患ったときの気持ちの切り替え」と対象者は高齢者だが、内容は新入社員と同じである。

この日は、高齢者の交通事故が多発しているので、飯塚警察署交通課長も招いて高齢者の事故の状況と安全運転の心得の講話もお願いした。参加者には、耳を傾けメモをとる会員もあり、まずは成功といえる。

問題は参加者数である。就業の関係で日曜日に開催したが、「いまさら何の研修」「予定が入っている」など生活のリズムを変えてまで参加しないのが高齢者かもしれない。

結果は、会員783名のうち、受講者449名で欠席者は334名に達した。このままでは、全員研修ではなく希望者の研修に終わってしまう。

当日欠席者のために、会場をセンターの会議室に移して、2月25日(月)から8班に分けて当日のビデオによる接遇研修を開催した。お陰で141名が受講した。

研修を終えて、事務局職員と会員(職群代表)に感想文をお願いしたのでその一部を紹介します。

松岡忠義さん 70歳

会員経験8年11月(草刈班)

地域の班長として、会員に出席を呼びかけた。

行政からの優先的な手厚い保護だった時代から公共事業の減少で、民間企業と一般家庭の受注獲得が不可欠であること。

わたし達の作業現場において、マナーとコミュニケーションをどのようなかたちで活用していくのか、それには会員と事務局が具体的に考えていくべきかと思う。

今回の研修に参加して、元気に働けることに感謝し丁寧な作業で利用者に喜ばれる者でありたいと痛感した。

安全に関する取り組みと安全意識の高揚について

(社)岡垣町シルバー人材センター 安全・適正就業推進員

吉田 和幸

平成11年度に事故が14件発生し、「事故が多いのでお抜いをしはどうか？」という当時の事務局長の立案で、12年度から1月の仕事始めに近くの高倉神社で、会員の安全と健康を祈願する行事として「安全就業・健康祈願祭」を計画しました。この「安全就業・健康祈願祭」から、安全意識の高揚に対する取り組みがスタートしました。

しかし、12年度も事故件数は多く、新たな取り組みとして、13年度より町内14の地域班を単位として「無事故コンクール」を開始しました。「無事故コンクール」は6月から11月までの6ヶ月間を期間として、無事故を達成した地域班には記念品を贈呈しています。つまり、だれか一人が事故を起こせば地域班全体に迷惑をかけることと

なり、会員の安全に対する意識が変わりました。

その結果、平成13・14年度と事故件数は減少し、15年度に(社)全国シルバー人材センター事業協会から安全就業優良シルバー人材センターの表彰を受けることができました。会員一人一人が安全就業を心掛けていただいた成果です。その後も、「安全就業ワッペン」の着用義務付けやセンター独自の「安全標語の募集・表彰」を実施するなど会員の協力の下、安全に関する様々な取り組みを実施してきました。その中でも特に、事故原因の調査・分析に力を入れ、15年度より就業グループ会員による事故対策会議を行うようにしました。会議では、グループ会員全員で事故要因や対策について話し合います。また、安全委員会に事故を起こした本人が出席し、事故状況や事故対策会議で検討した対策について報告をしていただくようにしています。起きた事故を十分反省し、原因を追求し、対策を立て、実行することにより、類似事故の再発防止に努めています。

地域班会議



剪定作業中



新たな取り組みを実施するためには、会員の理解と協力が必要です。会員に内容を説明し、事務局だよりや地域班会議を活用しています。

事務局だよりには、

毎月事務局からの連絡事項等を掲載し、全会員に郵送しています。特に7月号と1月号には、安全に関する内容を「安全だより」として掲載しています。

地域班会議は、毎年1・2月にかけて地域班ごとに計画しています。日程や会場の手配は地域班長が行い、事務局も会議に出席しています。議題は、事業状況や事故の報告、次年度の事業計画のほか、安全就業推進委員会からの連絡事項等を事務局より説明し、会員からの質問や意見を参考にしながら、次年度の事業計画や安全に関する取り組みを進めていきます。

ちよつとした気の緩みから事故は発生します。安全に関する行事や取り組み、各種会議や事務局だより等、できるだけ多くの機会を利用して「安全就業」を呼びかけていくことが、安全意識の高揚につながるのではないかと思います。今後も会員の理解と協力のもと、事故ゼロを目指して引き締めたいと思います。



倉庫写真

平成20年度 シニアワークプログラム技能・介護講習実施計画

【連合会主催】

地域	種類	講習名	実施回数	講習日数	受講予定 (1回当り)
福岡	長期	樹木・緑地管理講習	2	10	27
		警備・受付管理講習	2	8	20
		パソコン実務講習	2	8	30
		ネットワーク管理講習	1	8	25
		経理補助講習	1	8	25
		マンション管理員講習	1	8	25
		社会保険入門講習	1	8	20
		介護スタッフ講習	1	8	20
		介護事務講習	1	8	25
		訪問介護員講習	1	23	25
		添乗員養成講習	1	8	30
	短期	小型クレーン講習	1	5	20
		玉掛け技能講習	1	5	20
		フォークリフト技能講習	1	5	20
北九州	長期	樹木・緑地管理講習	2	10	27
		警備・受付管理講習	1	8	20
		パソコン実務講習	2	8	25
		ネットワーク管理講習	1	8	25
		経理補助講習	1	8	25
		マンション管理員講習	1	8	25
		介護事務講習	1	8	25
		訪問介護員講習	1	23	30
県南	長期	樹木・緑地管理講習	1	10	27
		警備・受付管理講習	1	8	20
		パソコン実務講習	1	8	25
		訪問介護員講習	1	23	30
筑豊	長期	樹木・緑地管理講習	1	10	27
		警備・受付管理講習	1	8	20
		パソコン実務講習	1	8	25
		訪問介護員講習	2	23	25

【シルバー人材センター主催】

地域	種類	講習名	実施回数	講習日数	受講予定 (1回当り)
福岡	短期	樹木剪定講習	3	4～5	20
		農業支援講習	1	4	30
		事務補助講習	2	4～5	20
		介護補助講習	1	5	20
		子育て支援講習	2	5	20
北九州	短期	果樹栽培支援講習	1	5	20
		事務補助講習	3	5	20
		筆耕講習	1	5	20
		子育て支援講習	2	5	20
県南	短期	果樹栽培支援講習	2	5	20
		事務補助講習	2	5	20
		襖・障子貼り講習	1	5	20
		介護補助講習	1	5	20
筑豊	短期	事務補助講習	1	5	20
		襖・障子貼り講習	2	5	20
		子育て支援講習	1	5	20



2008年3月7日(金)
北九州地域公共職業安定所共催高齢者合同面接会



講習期間及び会場はシルバー人材センター連合会、公共職業安定所、最寄のシルバー人材センターにお聞きください。

調整中の講習もあります。

● シニアワークプログラムとは

厚生労働省の委託をうけ、60歳台前半層を中心とする高齢求職者を対象として事業主団体等の参画・協力のもと、新しい技能・知識を習得する技能・介護講習を実施しています。

● 応募資格

- 原則として60歳台前半層で仕事をお探しの方
- 雇用・就業中の方は応募できません
- 過去1年間に当連合会の各講習会を受講された方を除きます

■ ■ シニアワークプログラム技能講習（長期、連合短期）科目別受講修了者数推移 ■ ■

区 分		受講者別	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
警備・受付管理業務講習		一般	133	107	83	90	67
		S C 会員	30	29	23	25	27
		小計	163	136	106	115	94
パソコン関係講習		一般	178	233	182	234	380
		S C 会員	18	21	28	13	106
		小計	196	254	210	247	486
樹木・緑地管理講習		一般	134	114	119	125	120
		S C 会員	23	43	29	49	60
		小計	157	157	148	174	180
社会保険入門講習		一般	15	14	17	14	12
		S C 会員	3	3	1	0	0
		小計	18	17	18	14	12
その他 （マンション管理員） （オフィススクリーニング） （介護事務 など）		一般		33	19	53	111
		S C 会員		5	1	14	37
		小計	0	38	20	67	148
総 計		一般	460	501	420	516	690
		S C 会員	74	101	82	101	230
		合計	534	602	502	617	920

■ ■ 介護講習（長期）等受講修了者数推移 ■ ■

区 分		受講者別	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
訪問介護養成研修 2 級課程		一般	160	165	170	93	93
		S C 会員	69	57	37	31	46
		小計	229	222	207	124	139
ガイドヘルパー		一般				16	
		S C 会員				2	
		小計	0	0	0	18	0
総 計		一般	160	165	170	109	93
		S C 会員	69	57	37	33	46
		合計	229	222	207	142	139

【受講生からのコメント】…受講後のアンケート、修了後 4 ヶ月経過の就職状況追跡調査アンケートより

【警備・受付管理業務講習】I さん（福岡地域）

市役所の掲示板で、受講生募集を知りました。
講習は、現場の事例をもとに、正しい対処法など教えていただき大変有意義でした。

【マンション管理員講習】K さん（福岡地域）

マンション管理員として、知識のみならず、受付対応のポイント、清掃器具の使い方等、役に立つ講習内容でした。

【パソコン実務講習】S さん（北九州地域）

今まで我流でパソコンを使っていたが、系統だてて指導をしてもらい理解しやすかった。
演習が主体であったが、問題ごとにポイントを抜粋したものがあればと思いました。

【訪問介護員養成 2 級課程講習】（筑豊地域）

M さん ・ おかげ様で、グループホームで働いています。

S さん ・ 受講ありがとうございました。介護、デイサービス、送迎を中心に求職中です。

今号の表紙



春の参道

(添田町英彦山)

撮影者 橋本 明爾 氏

元福岡県シルバー人材センター連合会事務局次長

今年3月末で退職された橋本氏の趣味の一つである写真撮影の腕を頼りに、特にお願いしました。



一言

コーナー

8月23日から、北京オリンピックが中国国内7つの都市で開催されます。近代オリンピックは19世紀末、フランスのクーベルタン男爵によって考案された世界五大陸と5つの自然現象、スポーツの五大原則、原色5色を組み合わせ平和を願ったとする説が有力な五輪マークの元、平和の祭典といわれる世界的なスポーツ大会であります。

日本が初めて参加したのは1912年のストックホルム大会で、以来約100年の歴史があり、日本での開催は、夏季の東京、冬季の札幌と長野の3回です。

過去には、世界大戦による中断やミュンヘン大会のテロ事件、アフガニスタン戦争に伴うボイコット問題等、その時々国際政治の影響が大きいものでありました。

漢民族を主とし、多くの少数民族を抱える中国においては、国内問題がありそうですが、あまり時差のないアジアで開催されますので、睡眠不足とならない程度に、次世代を担う若人に声援を送りたいものです。

編集後記



連合会業務も財源的な制約を受け、これまでの編集担当者が退職したことから、今回から再度機関誌編集体制を見直すこととなりました。

新しい体制での編集会議を開き、当面は好評であった前回までの編集方針を踏まえ、これに新しい企画を加えて編集することと方針を固めました。

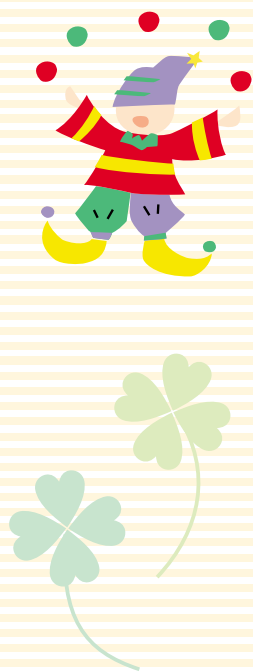
新しい企画である、「センター独自事業販売物品紹介」として大川市シルバーから「木好会とひな祭り」について、行橋市シルバーから「身の丈工房ゆくはし」についてを頂きました。

この独自事業は、会員の就業機会を拡大・確保し、高齢者の就業にふさわしく、かつ地域社会に貢献し、就業を通じて社会に参加し、生きがいや喜びにつながる事業でありますし、センターのイメージを高める効果が期待されるものであることから掲載することとしました。

「センターだより」は、民間受注拡大を目指して、会員全員にマナー研修を実施された飯塚市シルバーにお願いしました。

ご協力いただきました各センターには、原稿作成についてご協力いただき、ありがとうございました。

今後改良を重ねながら編集に取り組む予定です。皆様のご意見・ご感想等をお願いします。



福岡県シルバー人材センター連合会

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目9番2号

Y A O J I センタービル4F

TEL092-414-0287 FAX092-414-0297

(URL) <http://www.fscr.or.jp>



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの地球にやさしいインクを使用しました。また印刷はISO14001認証取得工場にて行っております。